



奮闘する企業

被災の大きかった浜通り。相双、いわき地区の2社の状況をお知らせします。

出社できる社員と一致団結し、食品スーパーの使命である販売を続ける

(株)キクチ

代表取締役 菊地 逸夫さん
(相双地区)



菊地逸夫さん(3月23日)

「フレスコキクチ」は福島県と宮城県沿岸部に食品スーパーを9店舗展開しています。3月11日の地震では各店舗共、天井の破損、陳列棚の変形、冷凍ケースのズレ等の被害を受けてしまいました。宮城県の店舗は電気も水も停止状態。そして、新店店は津波で水没、天井まで1mの所まで水が上がりました。行方不明

の社員さんご家族、自宅が流されてしまった社員さんも数十名にのぼります。心よりお見舞い申し上げます。そのような中ではありますが、新店店以外は12日午前より営業。店内が使えない所は店頭販売で対応されました。それは、地域に食の提供をするという使命感からです。しかし、商品の入荷も止まった状態。入場制限、個数制限などで対応。徐々にガソリン不足で出社できない社員さんも増加。そして12日と14日には、福島第一原子力発電所で爆発が起きます。



震災翌日から営業を続ける(相馬本店)

す。ガソリンも、人手も足りなくなる中、なんとか商品を集め営業を続けます。17日には宮城県の店舗も電気がつき店内営業再開。25日からは、自主避難地域で困難を極めている南相馬市の市民のために、鹿島店から相馬店に、会員の昭和観光バス岡本社長の協力を得、買い物バスの運行をはじめました。3月末には鹿島店を再開、買い物バスは他の南相馬の店舗から鹿島店までの運行に切り変えます。



(左から)高橋功店長、内山久仁子さん、内山義弘社長

我が社にできること... 避難者にメガネを無料提供

(有)内山眼鏡店

専務取締役 内山 久仁子さん
(いわき地区)

メガネ・補聴器の(有)内山眼鏡店の専務取締役、内山久仁子さん(いわき地区理事)は、今回の巨大地震をいわき市内で被災。スタッフとその家族は無事だったものの、津波による自宅への床下浸水、店舗建物の一部損壊や富岡の店舗が避難区域に入る等の被害を受けました。

さらに、多くの避難者がいわき市内に滞在している現状を目の当たりにし、夫で社長



いわき市立中央台南小にて

の内山義弘さんと共に福島県の業界関係者に協力を要請、フレームとレンズを準備し、スタッフをいわき市内の各避難所に派遣して、避難者の方々を対象にしたメガネ無料提供、調整・修理、補聴器クリーニングを行っています。さらに、今回の活動拠点として、また、避難所の方が徒歩でも通えるように、新たに平店をオープンさせました。このような局面だからこそ、自社にできる地域貢献を行っています。

また、いわき地区が開催した国の補助金等による雇用維持説明会にも参加、社員の雇用と生活を守り、やがて訪れる復興の時を見据えて日々奮闘する毎日です。